

平成 27 年度生徒指導集中対策指定校及び生徒指導実践指定校 「特別活動の取組事例」

学校名	三次市立十日市小学校	校長氏名	大原 俊哉	生徒指導主事氏名	丸山 信宏
-----	------------	------	-------	----------	-------

取組事例名 『あたたかい言葉がけ』 学級活動（２）望ましい人間関係の形成

取組のねらい『キーワード 相手の立場を考える』

なぜ相手が嫌がることを言うてしまうのか原因を探り、それに対する解決策を話し合うことを通して、相手の立場を考えた言葉遣いについて考えることができる。

取組の具体的内容『キーワード 自己決定』

・事前アンケート

「友達からうれしい言葉がけを言われたことがあるか」「友達から嫌な言葉がけを言われたことがあるか」を事前に調査する。

・学級活動の時間での授業 『あたたかい言葉がけ』

つかむ

事前アンケートの結果から、友達から言われた「うれしい言葉」や「嫌な言葉」にはどんなものがあるかを知る。

さぐる

どうして嫌な言葉がけを言うてしまうのか原因を考える。

見付ける

みんなで話し合い、相手に嫌な気持ちをさせないためにはどんな言葉がけをすればよいか考える。

決める

自分の課題に合った「努力すべきこと」を決める。

・事後指導

1週間毎日、自己目標をふり返り、がんばりカードに記入する。



取組の課題・創意工夫『キーワード 指導内容の絞り込み』

・教師主導で引っ張る展開となったため、子ども達自身に問題意識を持たせることが不十分だった。

事前アンケートの結果を提示し、子ども達の実態を知らせ、本時の学習に入ったが、子ども達が「自分達の実態を知ってどう思うか」を考えさせることが不十分だった。

・問いが抽象的になってしまった。

「なぜ嫌な言葉がけを言うてしまうのか」「友達に嫌な思いをさせないためには、どんな言葉がけをしたらよいだろうか？」などの問いに対し、子ども達は何を考えればよいかがつかめきれなかった。

取組の成果（効果）『キーワード 見える化』

・具体的にどんな言葉がけをするかを決めさせたことで、子ども達がうれしい言葉がけを実行することができた。

「1日に3回は友達に『すごいね』と言う」「友達が何かできた時に『よかったね』と言う」

「1日に1回は友達のすごいところをほめてあげる」

・事後の振り返りを行ったことで、自分の目標を意識しながら生活することができた。

「今日は5回『すごいね』と言えた」「〇〇さんの絵が上手だったからほめることができた」

今後の展開『キーワード 主体性, 具体性』

- ・問題意識を子ども達から引き出す。
事前アンケートから自分達の実態を知ってどう思うかを問いかけ、何が問題なのかを考えさせる。そして、その課題を解決するためにどうすればよいかを考えさせる。
- ・あたたかい言葉がけをするための具体的な場面を設定してトレーニングを行う。



他校へのアドバイス『キーワード 自治能力の育成』

今回の授業は教師主導になってしまった。子ども達の中から「自分達の学級を何とかしよう」という気持ちを引き出すことができれば、学んだことがより自分のものになると思う。

